

めあて

古文に書かれている内容を理解しよう。

1

次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

仁和寺にある法師、年寄るまで、石清水を拝まざりければ、心うく覚えて、あるとき思ひ立ちて、ただ一人、かちより詣でけり。極楽寺・高良などを拝みて、かばかりと心得て帰りにけり。

さて、かたへの人にあひて、「年ごろ思ひつること、果たしはべりぬ。聞きしにもすぎて、尊くこそおはしけれ。そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、なにごとかありけん、ゆかしかりしかど、神へ参るこそ本意なれと思ひて、山まで見ず。」とぞ言ひける。

少しのことにも、先達はあらまほしきことなり。

(『徒然草』より)

※ 石清水：・石清水八幡宮 高良：・高良神社

一 二重線部「おはし」を、現代仮名遣いに直して全てひらがなで書け。

二 波線部「言ひける」は誰の動作か。次のアからエの中から一つ選び、その記号を書け。

ア 法師 イ かたへの人 ウ 参りたる人 エ 先達

三 次は、『徒然草』について話し合っている先生と生徒の会話である。

(1) (2) にあてはまる言葉を本文中から抜き出して書け。ただし、(1)は三字、(2)は二字で抜き出すこと。

先生： 仁和寺の法師は、長年の希望を達成することができましたか。
生徒： いいえ。結局、(1)へは行かず、極楽寺と高良神社をお参りしたばかりで帰ってきてしまったので、思いを果たすことはできませんでした。

先生： せっかくの機会だったのに、本当に残念なことをしてしまいましたね。同じような失敗をしないためには、どうすればいいと思いますか。

生徒： やはり、私も筆者と同じように(2)に頼ることが大切だと思います。どんなに小さなことでもたずねるなどして、しっかりと準備をしておけば、このような結果になることもなかったと思います。

振り返り

一

二

三 (1)

(2)